慶應言語学
コロキアム

慶應義塾大学言語文化研究所
The Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies

コピー形成の最適化に基づく統辞研究の諸相

講師: 宗像　孝 氏(横浜国立大学)、北田　伸一 氏(新潟大学)
大宗　純 氏(関西外国語大学)、小町　将之 氏(静岡大学)

司会: 内堀　朝子 氏(東京大学)

コメンテーター: 杉本　侑嗣 氏(東京大学)、北原　久嗣(慶應義塾大学)

日時: 2023 年 9 月 9 日(土) ～10 日(日)　13:00-18:30

会場: 慶應義塾大学三田キャンパス北館3階大会議室

＊ 対面開催のみ（オンライン配信の予定はありません）
＊ 参加費無料・事前申込不要（会場にて参加者カードへの記入が必要となります）

今春公開された 2023 Theoretical Linguistics at Keio-EMU を始め、近年の研究では、コピー形成(copy formation) は経済性から導かれる計算メカニズムの根本的な特徴であり、言語構造を産出する演算メカニズムに自然に備わるものであると論じられている。本コロキアムでは、コピー形成が演算メカニズムに与える影響を見極め、演算におけるコピー形成の役割を俯瞰する。各発表にて、コピー形成が言語の基本的特徴だけではなく、search などで基本概念として深く根を下ろしていることを論じ、多くの事象の特徴を自然に説明することを示す。本コロキアムで全体において、コピー形成が演算メカニズムに最適な形で幅広い言語構造を産出する要因となり、enabling function の一端を担っている可能性を追求する。

宗像はコピー形成の役割を論じ、EPP 効果など *v*P/INFL-Spec に関係する構造の特徴を導き、移動が絡まない構文でもコピー形成が機能していることを示す。北田は、同族目的語構文（John smiled a happy smile.）を論じ、同形態の主要部が外的併合によって別々に導入され、コピー形成によって同一要素と解釈される仕組みを提案する。大宗は、ボックス理論での統辞構造の派生を議論した上で、コピー形成の条件である「構造的同一性、c 統御配置」がある意味で一致関係にも成立することを提案する。また、コピー形成の背後にある Search Σ に着目し、コピー関係（Σ_{copy}）も一致関係（Σ_{agree}）も元来同じ Search Σ から導出されたものであると論じる。小町は、大宗の提案を拡張し、一致関係だけでなく束縛関係も Search Σ から導き出せる可能性を探る。

第一日目
・発表 1： 演算メカニズムが導くコピー形成の最適化［概説/発表］（宗像孝）
・発表 2： コピー形成と「主要部移動」　（北田伸一）
第二日目
・発表 1： ボックス理論と一致 Σ_{agree}（大宗純）
・発表 2： ボックス理論と束縛 Σ_{bind}（小町将之）

主催 慶應義塾大学言語文化研究所

［お問い合わせ先］
〒108-8345　港区三田2-15-45　慶應義塾大学言語文化研究所
電話：03-5427-1595（事務室直通）　メール：genbu@icl.keio.ac.jp
http://www.icl.keio.ac.jp